

大日本絵画  
Dainippon Kaiga

清水圭 著  
Kei Shimizu

# 清水圭飛行機模型筆塗り塗装テクニック

TAMIYA 1/72 Vought F4U-1A Corsair / Fujimi 1/72 Aichi E16A1 Zuun Reconnaissance Seaplane (Paul)  
TAMIYA 1/48 Mitsubishi A6M3/5a Zero Fighter (Zeke) / Hasegawa 1/48 Junkers Ju87H-1 Sea Stuka  
Hasegawa 1/48 Macchi C.202 Folgore I / Hasegawa 1/32 Messerschmitt Bf109G-6  
Hasegawa 1/48 A-4N Skyhawk "Israeli Air Force" / Airfix 1/24 British Aerospace Sea Harrier FRS.1

# SIMSONIC DESTRUCTION



# SIMSONIC DESTRUCTION

清水 圭 飛行機模型筆塗り塗装テクニック

清水 圭 / 著  
by Kei Shimizu





# CONTENTS

## 目次

### PREFACE

004..... 前書き

### THE EXPECTED AUDIENCES

007..... この本はこんな方のためのものです

### THE "SHIM" METHOD

008..... 清水流基礎知識

### PAINT AND PAINT-BRUSHES

010..... 塗料と筆

## CHAPTER 1

### TAMIYA 1/72 VOUGHT F4U-1A CORSAIR

012..... タミヤ 1/72 ヴォート F4U-1A コルセア (2023 年本書用作り起こし)

### ADVANCED APPLICATION 1

応用編 1 1/72 の機体を塗ってみよう

### FUJIMI 1/72 AICHI E16A1 ZUIUN RECONNAISSANCE SEAPLANE [PAUL]

028..... フジミ 1/72 愛知 E16A1 瑞雲一型 (隔月刊スケールアヴィエーション 2016 年 7 月号 (Vol.110) 掲載)

## CHAPTER 2

### TAMIYA 1/48 MITSUBISHI A6M5/5a ZERO FIGHTER [ZEKE]

032..... タミヤ 1/48 三菱 零式艦上戦闘機五二型 / 五二型甲 (2023 年本書用作り起こし)

### ADVANCED APPLICATION 2

応用編 2 1/48 の機体を塗ってみよう

### HASEGAWA 1/48 JUNKERS Ju87H-1 SEA STUKA

050..... ハセガワ 1/48 ユンカース Ju87D-5 スツーカー改造 (隔月刊スケールアヴィエーション 2018 年 3 月号 (Vol.120) 掲載)

### HASEGAWA 1/48 MACCHI C.202 FOLGORE I

058..... ハセガワ 1/48 マッキ C.202 フォルゴレ (隔月刊スケールアヴィエーション 2007 年 5 月号 (Vol.55) 掲載)

## CHAPTER 3

### HASEGAWA 1/32 MESSERSCHMITT Bf109G-6

064..... ハセガワ 1/32 メッサーシュミット Bf109G-6 (2023 年本書用作り起こし)

### ADVANCED APPLICATION 3

応用編 3 フィンランド空軍の Bf109G-6 を塗ってみよう

### HASEGAWA 1/32 MESSERSCHMITT Bf109G-6

082..... ハセガワ 1/32 メッサーシュミット Bf109G-6 (隔月刊スケールアヴィエーション 2011 年 5 月号 (Vol.79) 掲載)

### ADVANCED APPLICATION 4

応用編 4 現用機を塗ってみよう

### HASEGAWA 1/48 A-4N SKYHAWK "ISRAELI AIR FORCE"

090..... ハセガワ 1/48 マクダネルダグラス A-4N "アヒト" (隔月刊スケールアヴィエーション 2012 年 5 月号 (Vol.85) 掲載)

### AIRFIX 1/24 BRITISH AEROSPACE SEA HARRIER FRS.1

096..... エアフィックス 1/24 プリティッシュ・エアロスペース シーハリヤー FRS.1 (2012 年製作)

## CHAPTER 4

### A TALK WITH HIDEAKI HIRATA

104..... 清水 圭 × 平田 英明 筆塗りのルーツに至る二人の邂逅



# PREFACE

## 前書き

### 不器用ゆえに編み出した 模型製作の基本となっているシンプルなテクニック

文/清水 圭 Text : Kei Shimizu

スケールモデルの目指すところが、実機の再現を目指したミニチュアモデルだとしたら、自分の目指すところはちょっと違います。ライターデビューが飛行機模型専門誌の『隔月刊スケールアヴィエーション』にも関わらず、自分はあまり飛行機の知識がありません。でも飛行機は大好きです。ただし自分が好きな、憧れる飛行機の姿は記録フィルムの中の実機映像でも資料本の実機写真でもありません。まだ茅野の中学生だった頃、模型雑誌で見たカッコいい飛行機模型が自分にとっての憧れの飛行機の姿なのです。横山 宏、松本州平、今井邦孝、市村 弘(敬称略ですみません)といったキラ星のごときモデラー達が生み出すカッコいい模型たち。それが自分にとっての機体のオリジンであり、模型として目指すものなのです。

そんなカッコいい模型はどうしたら作れるのか、そこから筆塗りというものに出会うのですが、これがすごく楽しい、そして難しい。エアブラシと違い、自分の手とつながった筆先で直接模型に触れ、塗っていく筆塗りは、そのライブ感とダイレクト感が最高に気持ちいい反面、技術的には感覚的な部分が多く、正直なところ、なかなか習得が難しいとって良いかと思います。実際、模型に出戻ってからライターデビューするまでの6年間は試行錯誤の連続でした。そしてその後、今に至るまでやっぱり試行錯誤を繰り返しています。シンプルに言ってしまうえばこのふたつ、"どうすれば下地を舐めずに色を重ねていけるか"と、"どうすれば色を重ねつつ厚塗りにならないようにできるか"、これをどう実現するかが自分の課題でした。たったふたつの課題ではありますが、自分の不器用さと折り合いをつけつつ解消していくのにデビューから更に10年がかかってしまいました。ただ、不器用ゆえに編み出し、今、自分の模型製作の基本となっているテクニック、工程は非常にシンプルです。シンプルでないと自分が実践できないので。そんなテクニックをまとめたのが本書です。

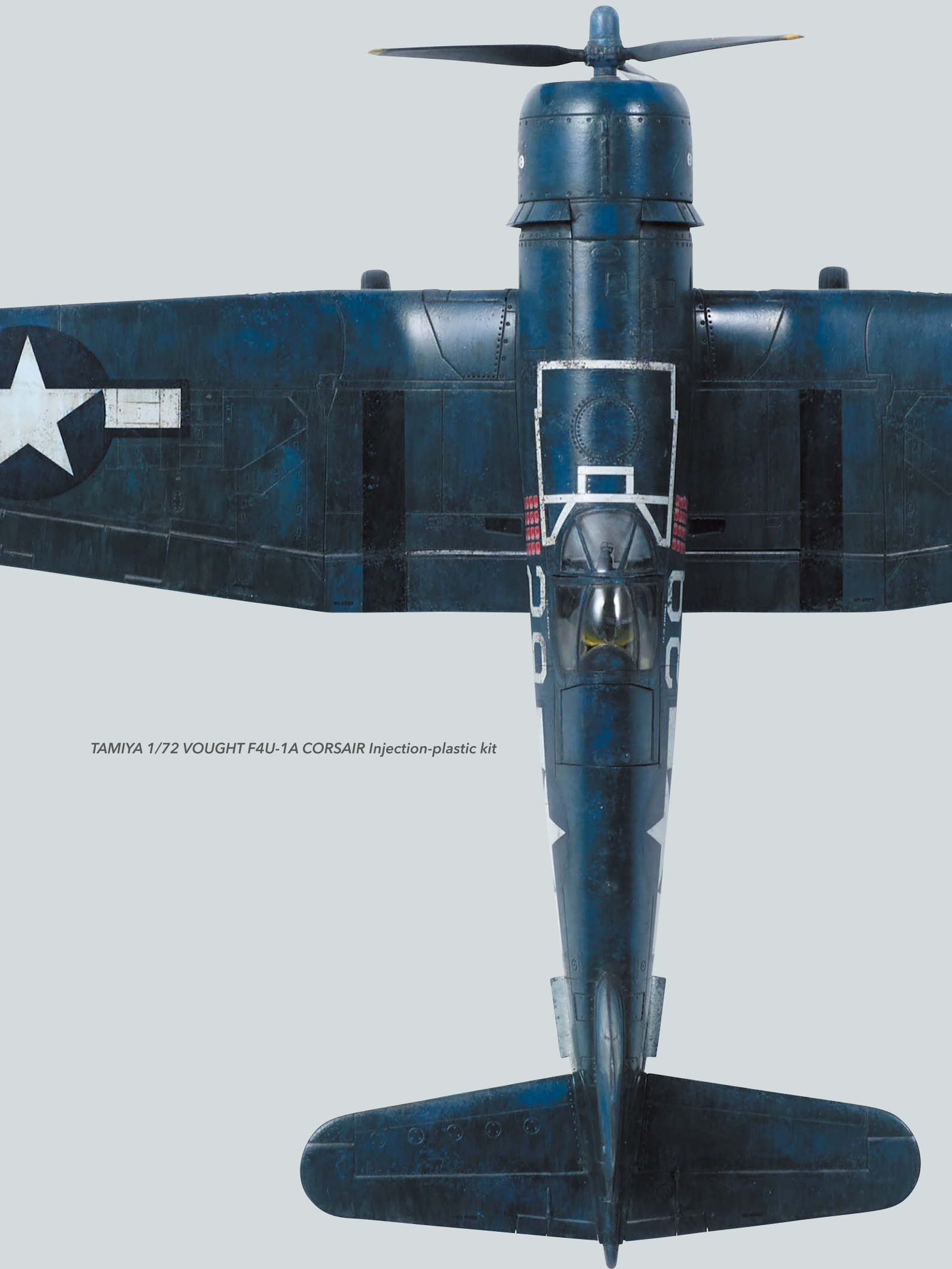
スケールモデラーとしてはだいぶ歪な自分の本ではありますが、「飛行機模型を作ってみようかな」という人が、実機忠実再現としてのミニチュアモデルではなく、メカとしてシンプルにカッコいい模型が作りたい！ と思ったときに、お役に立てる本じゃないかと思います。ひとまず筆塗りの難しさは置いておいて、まずは筆で塗ってみてください。楽しいですよ。 ■



清水 圭  
Kei Shimizu

しみず けい 1971年、長野県茅野市生まれ。東京都荒川区在住。高校時代に禁止されてから触れてこなかったプラモデル製作を2000年から再開。かつて憧れだったMAX塗りに挑戦しようと早速エアブラシを購入するものの、同じくかつての憧れ「SF3D(現マシーネンクリーガー)」の復活を知り、一気に筆塗りに傾倒していく。2006年に『隔月刊スケールアヴィエーション』でライターデビュー。以来、会社員の傍ら各模型誌でライター活動を行ってきたが、2022年よりフリーランスとなり、模型誌作例、模型製作講師など、プラモ一色の生活となっている





*TAMIYA 1/72 VUGHT F4U-1A CORSAIR Injection-plastic kit*



模型誌などで掲載されている綺麗な飛行機模型の作品。自分でも作ってみたい、そう思う方も多い事でしょう。でもその作品のほとんどはエアブラシで塗装されたもの。自分も作りたい。だけど、エアブラシも持っていないし、塗装する環境もない。おまけに時間も無いときた。やっぱり俺には飛行機模型なんて無理なのか……と思うのはちょっと早い。本書に書かれていることは一切エアブラシを使う事なく筆塗り一本、製作時間も1機につき2~3日ほどでできる内容。それでいて絵画的な出来という、現代の忙しいモデラーにとって必須ともいべき画期的な筆塗り飛行機模型塗装法をメインに解説するのが本書である

# THE EXPECTED AUDIENCES

この本はこんな方のために役立ちます

飛行機模型に色を塗りたい  
けどエアブラシを持っていないから塗れないよね……  
という考えをDESTRUCTIONするのがこの本書の目的なのだ



## ▶ エアブラシを持っていない

飛行機、とくに戦闘機の場合は往々にして“迷彩塗装”が施されていたりします。そんな機体を作りたいと思ったとき、クッキリ塗り分けられているならともかく、その境界がボケている場合には「カッコイイんだけどエアブラシ持ってないから作れないなあ……」なんて諦めてはいませんか？ じつは筆塗りでも、迷彩塗装のボケ足を再現することはできます。それもそんなに難しいやり方じゃありません

## ▶ 手早く完成させたい

飛行機模型の塗装って微妙な色味が多くて調色が必要なんじゃ……というアナタ。最近では多くの航空機用カラーが発売されているし、加えてオート系やキャラクター系のモデル用の、まさに色とりどりの塗料がラインナップされています。塗装指示どおり、もしくは自分のイメージに近いカラーを選んで瓶のまま(いわゆるピン生)で塗装するので、完成までもあっという間、考えている以上に“筆塗りはお手軽”です

## ▶ ちょっと人と違う作風にしたい

筆塗りでも塗料濃度や筆ムラを残さない塗装方法はありますが、清水式は塗料の濃度を薄くして塗り重ねることで下地色を活かした微妙な色合いを“描き出す”ことが可能。さらに筆目を意図的に残すことで絵画的なタッチを表現に盛り込んでいます。“平滑でツルビカ塗装”が一般的な飛行機模型ですが、それらとはちょっと違った独特の風合いで仕上げてみたいと思ったら、筆塗りはまさに最適な“やり方”なんです



# THE "SIM" METHOD

筆塗り仕上げの飛行機のカッコいいポイントは塗装面の情報量の多さがキモ少ない手数で最大限の効果が得られる清水流筆塗り技法に迫る

## 清水流基礎知識

### 清水流メソッドは6つのステップだけ! "情報量を増やす"のがカギ

文/清水 圭 Text : Kei Shimizu

自分の思うカッコいい模型は「塗装面の情報量が多い」という事に尽きますが、それを実現するために色を重ねすぎると、なんだか纏まりもなくなりますし彩度が落ちる原因にもなります。なにより面倒ですし、最低限の手数で効果を得るのが最良です。その方がラクちんで楽しい模型ライフが送れますよね。

筆塗りがエアブラシ塗装に劣るところはまず平滑に塗りつづるのが難しいこと。これを逆手にとって筆目の隙間に残る下地をそのまま残せば塗装面の情報量が増え、2色塗るだけでも塗った色数以上の情報量が得られます。さらにウォッシングで色数はマシマシです。ウォッシングからの拭き取りは全体をまとめる効果もあります。飛行機なら胴体は重力方向に、翼面は進行方向に拭き取ることで全体の筆目を統一し、ラフに塗った箇所もしっかりまとまります。ごく微妙に拭き取りを残すのがポイントです。ラフに塗っても最終的にある程度丁寧な仕上げに見える。大事です。■



#### 1. 下地塗装

基本的に暗いグレーであれば何でもOK! 金属的な下地をエッセンスとして盛り込みたいならメタリック系のグレーでも可。塗装の足つきと、その後の塗装で見え隠れする下地作りが目的なので、時短するなら缶スプレーがおススメ

#### 2. 基本塗装

使用するのは水性塗料。GSIクレオス水性ホビーカラーは入手も容易で色数も豊富、乾いたら塗り重ねても下地を溶かしにくいとイイことづくめ。調色はせずピン生で、希釈は専用のうすめ液、またはアクリルうすめ液を使用。うすめ液を筆に浸け、布で拭いてパレット上で塗料濃度を調整する

#### 3. タッチを入れる

下地を残しつつ、全体のトーンが整ったら基本塗装は終了。この工程で使用するのもGSIクレオス水性ホビーカラーだ。基本塗装と同系統の明度が高い塗料を使うのが基本だが、異なる色味で変化をつけるのもアリ。褪色やダメージ表現など強調したい箇所によって変化をつけるのがこの工程のキモ

#### 4. チッピング

ここでデカールを貼り完全乾燥させたらチッピングの準備完了。使うのは適度なサイズにちぎったスポンジヤスリ。ちぎったランダムな断面にタミヤエナメル塗料のダークグレーをほぼピン生の濃度で探ってボンボンする。機体色が暗い色にも明るい色にもちょうど良い明度なのだ

#### 5. ウォッシング

チッピングが済んだら半ツヤトップコートを吹き付けておく。ウォッシングにはタミヤスミ入れ塗料のダークブラウン。全体に満遍なく塗ったら、完全乾燥前にうすめ液を濡した綿棒で拭き取る。きれいに拭き取ったり拭き残したりすることでツヤ感の変化がつけられる

#### 6. 仕上げ

煤汚れや錆、オイル漏れといった表現を、ここは面相筆を用いて“描いて”いく。使用するのはおもにガイアノーツのエナメルカラー、ススと赤サビ色。キャノピーの枠にはスミ入れ塗料のダークブラウンでスミ入れて拭き取ると境界線がピンッと整う。割らないように注意してね



*TAMIYA 1/48 MITSUBISHI A6M5/5a ZERO FIGHTER [ZEKE]  
Injection-plastic kit*





**AQUEOUS 水性ホビーカラー**  
●GSIクレオス

模型専門店や家電量販店、ネット通販など全国規模で入手が容易な塗料といえばやはりGSIクレオスの水性ホビーカラー。近年は品質も向上し隠蔽力、発色も良好、基本色のみならず特色も豊富にラインナップされ、お値段も控えめと良いとこづくめだ

**タミヤカラー エナメル**  
●タミヤ

チッピングに使用するのがタミヤエナメル塗料のダークグレイ。塗装の剥がれを表現するチッピングというシルバーをイメージしがちだが、本日は機体の塗装色が明るくても暗くても適度に目立つ一色。ほとんど希釈せずそのままの濃度で使用している



**スミ入れ塗料(ダークブラウン)**  
●タミヤ

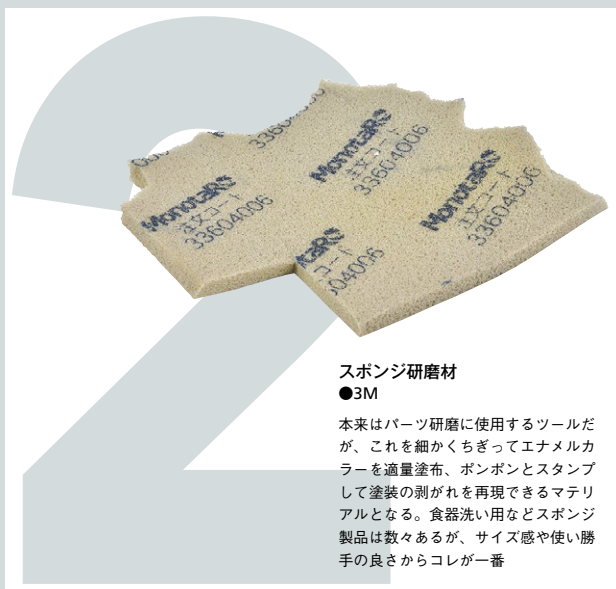
全体のウォッシングに使用するのに便利なのがタミヤのスミ入れ塗料。全体に塗りたくって拭き取ることでパネルラインへのスミ入れと全体の表情付けが同時に行なえるスグレモノ。製品の濃度そのままでするのも手間いらずなポイント

## 基本的に使う塗料は水性ホビーカラー 筆はほとんど平筆一本で塗る

文/清水圭 Text: Kei Shimizu

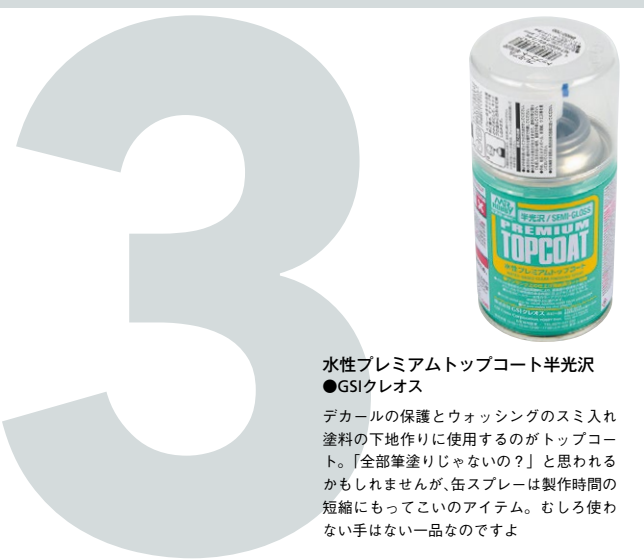
使用する塗料はGSIクレオスの水性ホビーカラー。最新の「AQUEOUS」シリーズは、個人的にはほぼラッカー塗料と遜色ない仕上がりに感じます。加えて彩度の高さ、乾燥後に上塗りしても下地が溶けることがない(AQUEOUSは若干溶けます)という点は、ラッカーに比較して大きなアドバンテージだと思います。なにより、ラッカー筆塗りでも下地を舐めてしまうという方には是非一度水性ホビーカラーを試して頂きたいところです。仕上げ前に使用する「プレミアムトップコート半光沢」は、ウォッシングの拭き取り加減によって残るツヤ感の塩梅が絶妙にいい感じなのです。ツヤ加減というのも塗面の情報量のひとつなので画一的でないツヤが大事です。

ちなみに全体にツヤ感が強くなりすぎるので「光沢」は使用しませんが、ここぞという個所を艶々にしたい時はあるものです。その際は古のテクニック「鼻の油」を指でこすりつけています。今回の作例でいえば、零戦のカウル周り上面に使用しました。あまり人には言いにくいテクニックですが。 ■



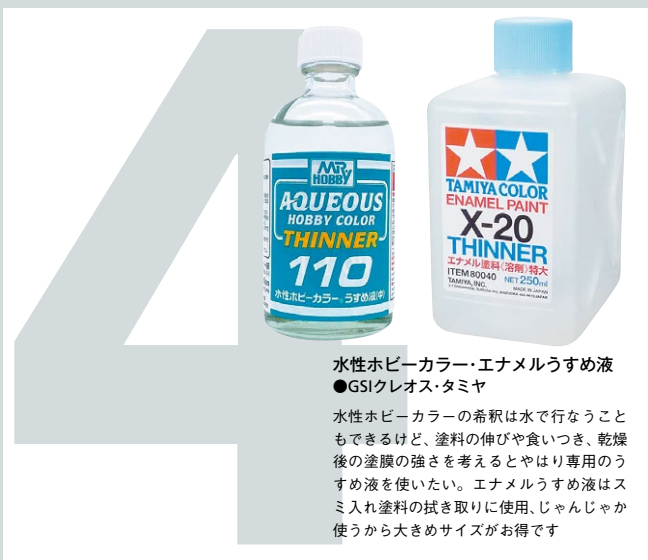
**スポンジ研磨材**  
●3M

本来はパーツ研磨に使用するツールだが、これを細かくちぎってエナメルカラーを適量塗布、ポンポンとスタンプして塗装の剥がれを再現できるマテリアルとなる。食器洗い用などスポンジ製品は数々あるが、サイズ感や使い勝手の良さからコレが一番



**水性プレミアムトップコート半光沢**  
●GSIクレオス

デカールの保護とウォッシングのスミ入れ塗料の下地作りに使用するのがトップコート。「全部筆塗りじゃないの?」と思われるかもしれませんが、缶スプレーは製作時間の短縮にもってこいのアイテム。むしろ使わない手はない一品なのです



**水性ホビーカラー・エナメルうすめ液**  
●GSIクレオス・タミヤ

水性ホビーカラーの希釈は水で行なうこともできるけど、塗料の伸びや食いつき、乾燥後の塗膜の強さを考えるとやはり専用のうすめ液を使いたい。エナメルうすめ液はスミ入れ塗料の拭き取りに使用、じゃんじゃか使うから大きめサイズがお得です

# PAIN T AND PAIN T BRUSHES

塗料と筆

清水流の筆塗り仕上げに使用するのはこのページに載っているツールやマテリアルだけ。どれも手軽に入手可能で価格もお手頃なものばかりとなっている



コリンスキー模型用面相筆 0号/S  
●モデルカステン

面相筆は仕上げの表情付けやキャンピーフ  
レームなど細部の塗装にも使用する。モデル  
カステンの0号/Sは穂先の短いショート  
タイプでより繊細なタッチのコントロール  
がしやすいのが特徴。排気煙などの汚れも  
これで“描いて”いく



平筆 ハイ・セーブル 2号(平)  
●文盛堂

基本塗装からタッチまでこの平筆一本で進  
めている。ここで紹介しているのは2号だ  
が、1/32など面積の広いモデル製作にはサ  
イズの大きい4号の平筆を使用。平筆は筆  
先の角度によって、広い面から細部まで使  
い分けられるオールラウンダー



メイクアップ綿棒  
●ダイソー

ウォッシングの拭き取りに大活躍するのが  
綿棒。汚れたらどんどん交換していくもの  
なので100円均一ショップで入手できるも  
のをチョイス。ただし安ければよいという  
ものでもなく、サイズ感と先端が崩れにく  
い硬さのメイク用を推奨したい



極細竹ようじ  
●モデルカステン  
ハイグレード模型用  
●セメダイン

ここで紹介する接着剤は一般的な組み立て  
用ではなくキャンピーフなどの接着に使うも  
の。瞬間接着剤のように曇ったりせず乾燥  
時間に余裕があるのもポイント。竹ようじ  
は接着剤を塗布するときのアプリケーター  
で、はみ出した接着剤の除去にも使える



CHAPTER 1

VOUGHT

# F4U-1A CORSAIR

TAMIYA  
1/72 SCALE









# タミヤ 1/72 F4U-1A コルセアを アメリカ海軍機独特のツヤで再現する

長い鼻に逆ガル翼、力強くスマートなフォルム。空母艦載機という過酷な環境下での運用にもかかわらず美しい光沢を有するコルセアを筆塗りりで仕上げるメソッド

## 基本塗料



●H54 ネイビーブルー



●H56 ミディアムブルー



●H51 ガルグレー

## タッチを入れる塗料



●H42 ブルーグレー



●H67 RLM65ライトブルー



●H21 グランプリホワイト



●XF-24 ダークグレイ



●スミ入れ塗料  
(ダークブラウン)



●GE-53 煤(すす)



●GE-51 赤サビ

基本塗装に使用するのはH54 ネイビーブルー、H56 ミディアムブルー、H51 ガルグレー。タミヤ製キットの塗装指示はGSIクレオスカラーに準拠していないので注意が必要だが、これは互換色や近似色をあらかじめ調べておくとよい。タッチに使用するのはH42 ブルーグレー、H67 RLM65ライトブルー、H21 グランプリホワイト。機体の基本色に対して同系統で明度の高いカラーを

チョイス。同系統であっても黄色寄りや青寄りなど色調が異なるカラーによって仕上がりの印象は変化する。ブルーグレーは青味が強いカラーなので基本色のネイビーブルーとの相性が抜群で、その硬質感のある濃いブルーを濁らせることなく表情を付けることに成功している。排気炎のウェザリングにはGE-53 煤(すす)と、GE-51 赤サビ(両方ともガイアエナメルカラー)を使用した

## 薄く手早く塗り重ねて タッチを書き込んでいこう

文/清水 圭 Text : Kei Shimizu

ちょっとプラモでも、なんて時によく手にするのが1/72の大戦機。タミヤの1/72 コルセアは手のひらサイズに精密なディテール、塗るのも手軽でお気楽に作っても満足度が高いキットです。使用した筆は文盛堂ハイセーブル平筆2号。平筆は広い面積を塗ることもできれば、穂先で直線を描くこともでき、エッジを使って細部を塗ることもできます。この万能ぶりのおかげで塗装はほぼ平筆一本、道具を持ち替えるのが嫌な無精者には最適です。

基本塗装は塗装指示通りにネイビーブルー。これを平筆で塗っていくわけですが、飛行機の場合、胴体は垂直方向に、翼面は進行方向(前から後ろへ)に筆を動かしていきます。この動きで気長に塗るのがポイントです。3、4回くらい重ねて色が乗ればいいかな、位の気持ちで薄く塗っていきます。基本色後、少し明るい色でタッチを入れていきますが、ただ明度が高いだけでなくちょっと基本色とは違う色味が入るといい感じです。今回、ミディアムブルーのタッチに使ったライトブルーはちょっと緑が入っていて良いアクセントになりました。■



ヴォート F4U-1A コルセア  
タミヤ 1/72 インジェクションプラスチックキット  
TAMIYA 1/72 VOUGHT F4U-1A CORSAIR  
Injection-plastic kit



## 1. 基本塗装 BASIC PAINTING

基本塗装の手順として、一番濃い色から塗装を始める。まずは機体の塗り分けラインを描くことからスタート。続いて機首のカウリングから機体本体を塗っていく。塗料の濃度はかなり薄めで「こんなに薄くて大丈夫？」と不安になるかもしれないが、4回ほど塗り重ねれば狙った通りのトーンとなる。筆運びは胴体が上から下へ、翼は前から後ろへ、が鉄則だ



▲下地は平滑な下地と塗料の足つきがメインなのでサーフェイサーである必要はない。今回はモデルカステンカラー-C31カモフラージュグレーを使用



▲一番濃い色のH54 ネイビーブルーから塗装開始。塗装図などを参考に機体の塗り分けラインを描く。このあと修正はいくらでも可能なので、とくに神経質にならず、ざっくりとで充分



▲基本塗装の一回目。かなり薄めに希釈した指定色を機体の上下方向に沿って塗っていく。塗りつぶしが目的ではないので、下地が残っていても構わずどんどん色を載せていく



▲主翼部分は前方から後方へと、進行方向に沿って筆を運んでいくのがポイント。写真は一度塗りの状態でかなり下地が見えているのだが心配無用、これで充分



▲主翼の前端から後端までひと筆で塗りたくなるのが人情だけど、そこは別に重要じゃない。ポイントは筆を運ぶ方向と全体に色を載せていくことだが、載ってなくても気にしない



6



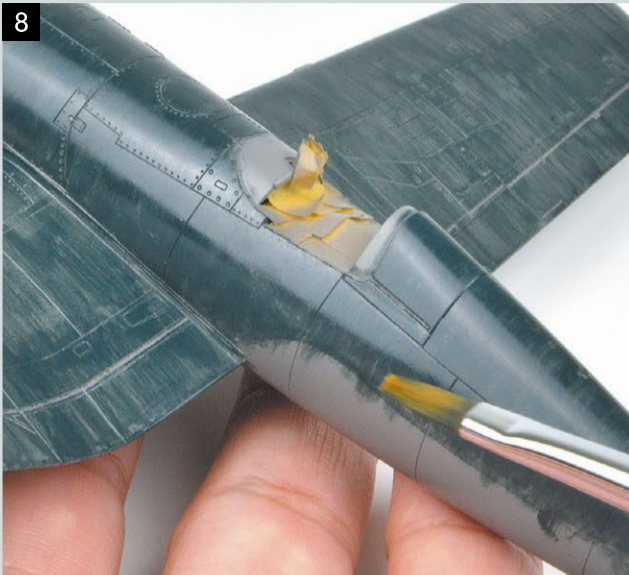
▲基本塗装の2回目。ここから全体のトーンが同じになるように塗料を置いていく。一度目の塗装で下地ができていたので塗料の載りが良くなり、塗ってるこちらもノッてくる

7



▲全体の2回目の基本塗装が完了。ある程度、下地のグレーが顔を出しているように見えているが、全体のトーンはおおよそ揃っているのが確認できれば問題なし

8



▲胴体部分の基本塗装3回目。塗り分けラインは進行方向に塗りたくるけど、筆運びは前後方向ではなく上下方向を遵守。塗り分けのキワは平筆の先端部分を使用する

9



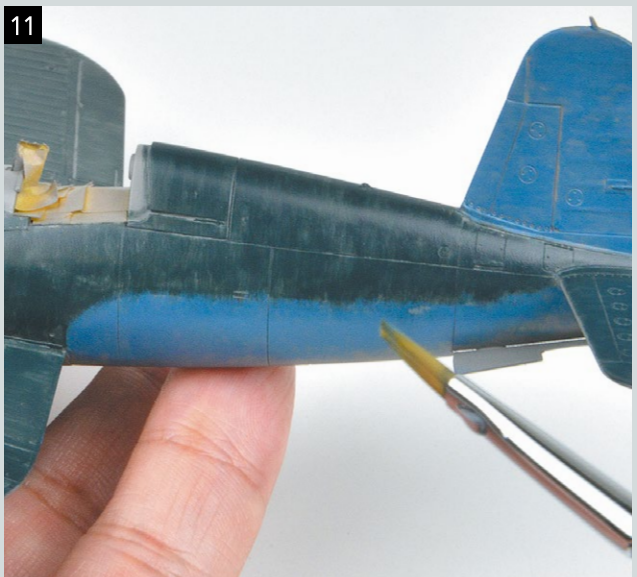
▲基本塗装の3回目完了。ここで全体のトーンが揃っているか、カウリング、胴体、主翼と尾翼とそれぞれのくらい下地が見えているか、筆目の塩梅は、などを確認

10



▲基本色の2色目H56 ミディアムブルーの塗装。ここでも筆運びは機体の上下方向に沿わせていく。塗料の濃度はネイビーブルーと同じく薄め、まずは全体に色を乗せていく

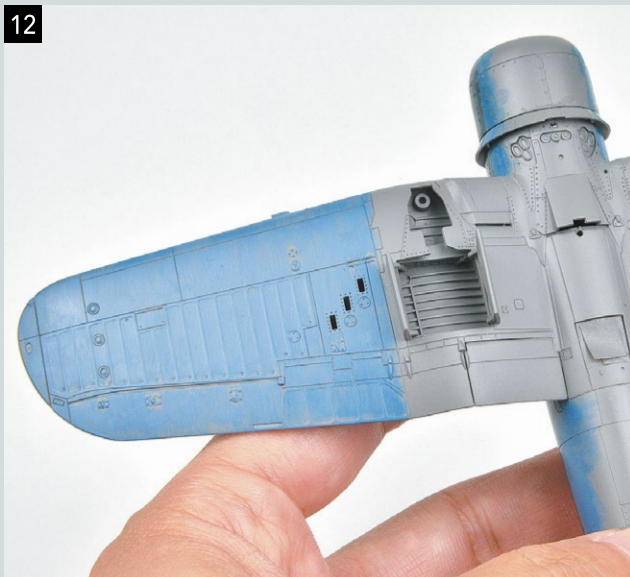
11



▲このコルセアの迷彩はボケ足のほぼ無い塗り分け。ここでも筆運びは上下方向、キワの部分は平筆の先端を上手く使う。もしはみ出しても塗り直せばよいのでガンガン塗っていく



12



▲主翼下面のミディアムブルー1回目。塗料の希釈濃度はネイビーブルーと同じ程度だが、隠蔽力の差があるためこちらは塗料の載りが良い

13



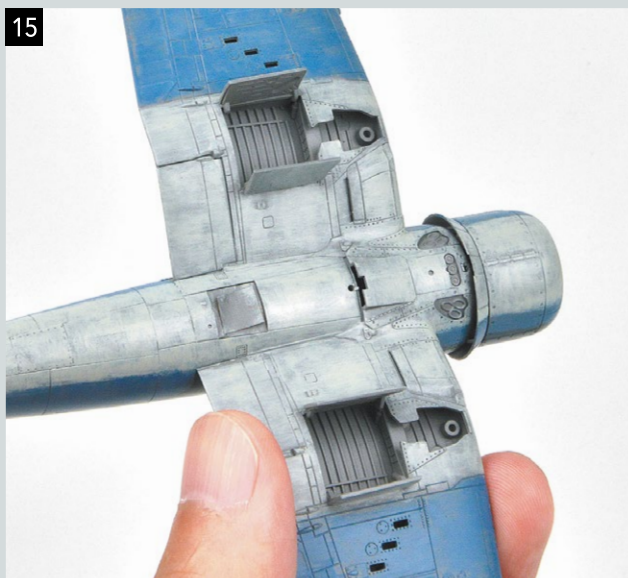
▲ミディアムブルーの基本塗装2回目。思った通りのトーンに決まった。エンジンカウルと機体前方部分も範囲は狭いのだが、この筆運びも上下方向を厳守

14



▲機体後方、3色目となるH51 ガルグレイの基本塗装1回目。ミディアムブルーと同様にここも上下方向の筆運び。範囲が狭いから……などと面倒くさがってはいけない

15

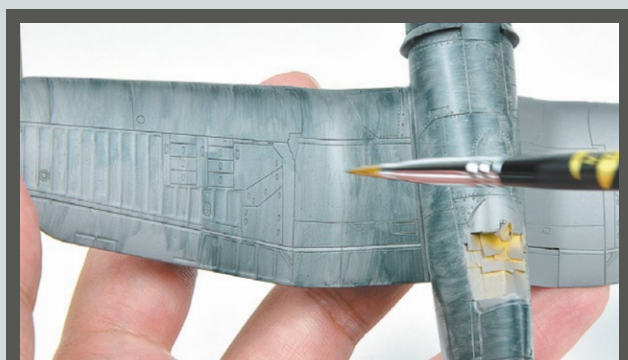


▲機体下面の筆運びはやや複雑。主翼の前端から後端までのあいだは進行方向、機体先端から主翼前端までと主翼後端から機体後部は上下方向となる

16



▲ガルグレイも2回目の塗装で思惑通りのトーンとなったので、基本塗装はこれで完了。水平尾翼の裏など、機体と離れた部分も同程度のトーンとなっているかもキチンと確認する



## 返し筆はやらないように

筆塗り塗装で最も注意したいのが返し筆。筆運びはあくまで一定の方向とするのが鉄則。たとえ塗料の濃度が薄くとも筆運びの向きを逆にしてしまうと塗面が荒れ、表面がでこぼこになってしまうからだ。また、下地を舐める原因ともなる。こうなると修正は容易ではなく、塗装を一度すべて落として最初からやり直し、という一大事になってしまう。これは基本塗装だけでなく、のちのタッチなどの塗装工程でも同様だ。なおこの返し筆という呼称は、“ぼかしや濃淡を入れる筆と絵の具用の2本の筆を交互に使用する日本画の技法”としても使用されているのだが、本書ではあくまで前述のような逆向きの筆さばきのことを指すので誤解のないよう注意したい





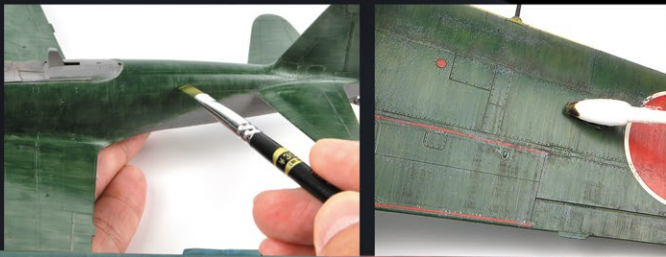
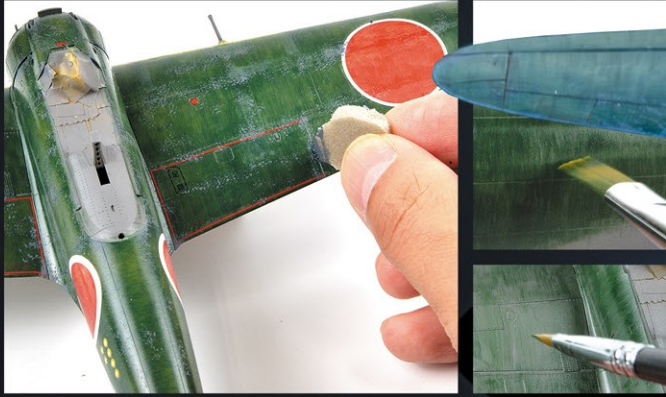
9784499233828

ISBN978-4-499-23382-8 C0076 ¥3600E

定価(本体3,600円+税)



1920076036002



# SIMSONIC DESTRUCTION

清水 圭 飛行機模型筆塗り塗装テクニック

Kei Shimizu

